

ふるさとづくり大賞優秀賞を受賞

2月10日(水) 智頭町役場

NPO法人智頭の森こそだち舎が令和2年度ふるさとづくり大賞の優秀賞(総務大臣表彰)を受賞され、表彰状と表彰盾の伝達式が行われました。

ふるさとづくり大賞は、地域をより良くしようと頑張り、魅力あふれるふるさとづくりに顕著な功績のあった個人、団体が受賞するもので、智頭の森こそだち舎は平成21年から森のようちえんを開園し、本町の豊かな自然を活かした新しい教育スタイルの創出など本町の活性化に尽力されています。



受賞された智頭の森こそだち舎の西村さん(左)と熊谷さん(右)

小さな冬のつどい

2月13日(土) 智頭駅前



会場の様子(左)と火が灯った竹灯笼(右)

コロナ禍で様々なイベントが中止となっているなか、少しでも町の人に元気になって貰いたいという思いから、一社智頭町観光協会が「小さな冬のつどい」を企画し、開催されました。

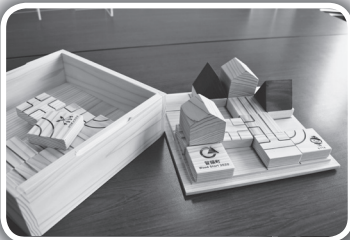
この催しは、感染対策を行った上で実施され、特産品の販売や竹の札に願いを書いてお焚きあげなどが行われたほか、夜には竹灯笼への点灯が行われました。訪れた人からは、「色々な企画があつて楽しかった。最近はやイベントもなくなっていたので、ありがたいです」などの声がありました。

大切に遊んでね

2月18日(木)~19日(金) 町内

本町では、木や森に触れてもらい、子どもの健やかな成長を促すという目的から、毎年新生児に智頭の木でできたおもちゃをプレゼントしています。今年は、新型コロナウイルスの影響により贈呈式ではなく、金児町長が一軒一軒訪問し、おもちゃを贈呈しました。

受け取った保護者からは、「どんな風に遊んでくれるかとても楽しみです」と喜びの声をいただきました。



贈呈の様子(右)と贈呈されたおもちゃ「智頭の地図」(左)。年齢に合わせて様々な遊び方ができる。